

『戦後北海道開発の軌跡—対談と年表でふりかえる開発政策』

新時代の地域構想へ

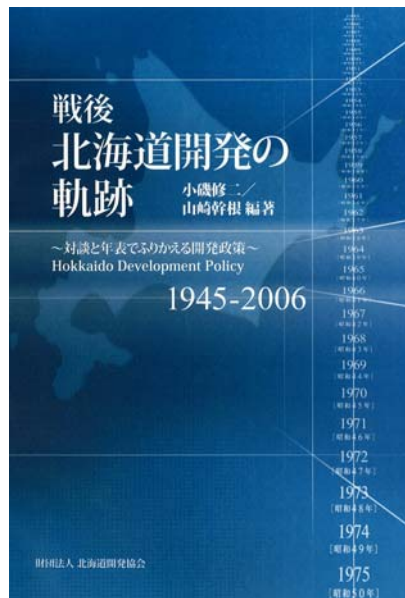
地方分権のフロント・ランナーを目指して、歴史の教訓から学び、未来を見つめよう。
北海道のこれからを考えるために必要な1冊。

第1部◇対談

はじめに～いま、なぜ北海道開発か／北海道開発政策とは何か／北海道開発庁と北海道～国と地方の関係から／北海道開発政策の変遷～独自の多様な地域政策／北海道開発政策の成果を評価する／これからの新しい地方政府とは？～北海道における開発体制も含めて

第2部◇北海道開発政策史年表（1945～2006）

【コラム】戦後北海道開発体制の形成とGHQ／北海道開発庁と北海道開発局／1950年代にみられたさまざまな開発体制の構想／根釧パイロット・ファームと世界銀行／新たな北海道開発金融システムの形成／北海道開発論争／苫小牧における臨海工業都市開発／第3期北海道総合開発計画における北方圏構想／大雪縦貫道路の建設、自然保護をめぐる国民的議論／北方領土隣接地域に対する安定振興対策／北海道開発とアイヌ新法／時のアセスメント／苫小牧東部開発／北海道分県構想／千歳川放水路計画／国土計画と北海道



小磯修二／山崎幹根 編著

（財）北海道開発協会

定価 1,800円（本体 1,714円）

購入
申込み・
お問い合わせ

（財）北海道開発協会 広報研修出版部

TEL 011-709-5223

FAX 011-709-5226

<http://www.hkk.or.jp>

政府刊行物センター、書店、オンライン通販アマゾンでも
販売を予定しています。